

2012

NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION
UNIVERSITY OF YAMANASHI

地域の中核 世界の人材



山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI



学長挨拶

山梨大学は「地域の中核、世界の人材」というキャッチ・フレーズを掲げて、地域社会の中核として、地域の要請に応えることができると同時に、世界を舞台に活躍できる人材の育成をめざしています。この結果、これまでに本学から、実社会の様々な領域の中核として活躍する優秀な人材が輩出しています。

本学には、教育人間科学部、医学部、工学部と生命環境学部があり、各学部の先進的研究成果を基盤に、学部ならびに大学院学生の教育を行い、全教職員が協力して、広い視野と優れた道徳的及び専門的能力を持つ人材の育成に情熱を持って努めています。

教育人間科学部、工学部、生命環境学部の在る甲府キャンパスと医学部キャンパスは離れていますが、1年次生は全員が甲府キャンパスで、基礎学力の修得と人格の陶冶を目指した全学共通教育科目を履修します。これらの講義を受講し、同じ学部の学生諸君や目標も考え方も異なる他学部の学生諸君と積極的に交流を深め、心を開いて話ができる友人、知己を多く作っていただきたいと思ひます。

教育人間科学部には学校教育課程と生涯学習課程があり、学校現場の諸課題に的確に対応できる実践的指導力を身につけた優れた教員の育成と芸術分野での生涯学習の活性化や身体健全分野で健康長寿社会の実現などを支援できる人材の育成を目指しています。

医学部には医学科と看護学科があり、病める人の苦痛を自らの苦痛と感ずることができ、生涯にわたって医学的知識・技術の習得に努め、保健医療・福祉に貢献できる人材、及び国際的に活躍できる医学研究者の育成を目指しています。

工学部には7つの学科(機械工学科、電気電子工学科、コンピュータ理工学科、情報メカトロニクス工学科、土木環境工学科、応用化学科、先端材料理工学科)があり、この他本学には、

クリーンエネルギー研究センター、ワイン科学研究センター、クリスタル科学研究センター、国際流域環境研究センター、燃料電池ナノ材料研究センターの5つの工学系の附属センターがあって、現代社会が抱える重要課題の解決に貢献でき、産業界の期待に応えることのできる実践的能力を身につけた優れたエンジニアや研究者の育成を目指しています。

生命環境学部には生命工学科、地域食物科学科、環境科学科の理系3学科と文系の地域社会システム学科があり、21世紀における重要課題である「生命・食・環境・経営」に関する文理融合の実践教育を行い、豊かな地域社会を実現するために必要となる、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野を持ち、地球規模の食料、環境問題などの解決に貢献できる実践的専門職業人の育成を目指しています。

大学院には、教育学研究科及び医学工学総合教育部があり、学士課程修了後に更に深い専門的知識と応用的能力を身につけたい学生諸君の要望に応じ且つ社会の発展に寄与するため、様々な分野の先進的、学際的・研究を遂行しています。本学の大学院で積極的に学び、国際的に通用する高度の専門的知識や技能を身につけ、産学官にわたり国際的に活躍できる優れたリーダーに成長していただきたいと願っています。

山梨大学は、以上のように、社会の中核として活躍できる人材の育成を目指しています。この目標達成のため、本学では、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、絶えざる改革を推進しています。是非、山梨大学で学び、将来世界に羽ばたいていただきたいと願っています。

国立大学法人山梨大学
学長 前田 秀一郎

山梨大学は、個人の尊厳を重んじ、真理の追究と学問の自由を大切に、多様な文化や価値観を積極的に受け入れます。また、社会の要求に応えつつ、広い知識と深い専門性を追求し、地域の中核となり、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材を養成する場となることを表明します。この憲章に基づいて、山梨大学の役員・職員・学生は、志を同じくするすべての人々と協力し、以下の目標の達成を目指します。

未来世代にも配慮した教育研究

山梨大学は、現代世代だけでなく、未来世代の福祉と環境にも配慮した視点に基づいて、教育研究を行います。

世界的研究拠点の形成

山梨大学は、国際的視野を持って、問題の発見と解決に取り組み、世界の人材が集う研究拠点を構築し、学術及び科学技術の発展に貢献します。

地域から世界へ

山梨大学は、地域社会が抱える課題を取り上げ、その解決に地域と協働してあたり、得られた成果を世界に向けて発信します。

絶えざる改革

山梨大学は、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、絶えざる改革を推進します。

諸学の融合の推進

山梨大学は、専門領域を超えて協力し合い、諸学の柔軟な融合による新しい学問分野を創設し、さまざまな課題の解決に努めます。

国際社会で活躍する人材の養成

山梨大学は、市民としての倫理性と自律性を身に付け、専門性をもって、国際社会で活躍できる人材の養成に努めます。

現実社会への還元

山梨大学は、教育研究の成果が社会に応用され、役立つよう、社会に積極的に還元することに努めます。

山梨大学が求める人、養成する人材

【理念・目的】

豊かな人間性と倫理性を備え、広い知識と深い専門性を有して、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成する教育・研究を行います。

【キャッチフレーズ】

地域の中核、世界の人材

【教育目標】

個人の尊厳を重んじ、多様な文化や価値観を受け入れ、自ら課題を見だし解決に努力する積極性、先見性、創造性に富んだ人材の養成を目指しています。

【アドミッション・ポリシー】

本学の理念・目的を理解し、学習意欲と社会に貢献したいという意思のある人を求めています。

シンボルマーク

たわわに実った葡萄の房が輝く太陽の光に照らされているところを立体的にデザインしました。繋がった円は、「学問の融合」と、本学が育んだ教育・研究の情報が地域さらには世界に向けて発信され、再び本学に戻ってくるという「循環的な相互関係」を、そして、独立した円は、輝く太陽と新しい山梨大学が希求する理念を表現しています。

葡萄は、古くから生命や知識、そして文化のシンボルとして知られています。太陽の光があたった葡萄は、山梨大学がますます国際社会に貢献していく理想像も重ね合わせています。



■ 沿革

1795年	12月	甲府学問所御典館
1886年	12月	山梨県尋常師範学校
1921年	4月	山梨県実業補習学校教員養成所
1924年	9月	山梨高等工業学校
1943年	4月	山梨師範学校(官立)
1944年	4月	山梨師範学校(官立)、山梨工業専門学校
1949年	5月	山梨大学開学 山梨師範学校と山梨青年師範学校を合わせて学芸学部とし、 山梨工業専門学校を工学部とする
1965年	4月	大学院工学研究科(修士課程)設置
1966年	4月	学芸学部を教育学部に改組
1989年	4月	工学部を改組
1992年	4月	大学院工学研究科(博士後期課程)設置
1995年	4月	大学院工学研究科(修士課程)設置
1998年	4月	教育学部を教育人間科学部に改組
2002年	4月	大学院工学研究科(博士前期課程)を改組
2002年	10月	旧山梨大学と旧山梨医科大学を統合し、山梨大学が開学
2003年	4月	大学院医学工学総合研究部・教育部を設置
2004年	4月	国立大学法人山梨大学が発足
2010年	4月	教職大学院(教育実践創成専攻)設置
2012年	4月	生命環境学部設置

■ 学生数(2012年5月1日現在)

学部学生数	
教育人間学部	828人
医学部	993人
工学部	2,031人
生命環境学部	142人
合計	3,994人

大学院等学生数	
教育学研究科	84人
医学工学総合教育部	903人
専攻科	16人
合計	1,003人

■ 附属学校生徒数
(2012年5月1日現在)

小学校	587人
中学校	479人
特別支援学校	54人
幼稚園	98人
合計	1,218人

■ 教員数(2012年5月1日現在)

教授	181(15)人
准教授	168(12)人
講師	39(5)人
助教	186(67)人
教諭(養護教諭、栄養教諭含む。)	83(1)人
合計	657(100)人

※()は特任教員等の数で外数
※休職者及び休業者は除く

■ 山梨大学の現状

教育人間科学部、医学部、工学部及び生命環境学部の4学部から構成され、あわせて全国でも唯一の医学、工学の領域を融合した大学院(医学工学総合研究部・同教育部)を有しています。

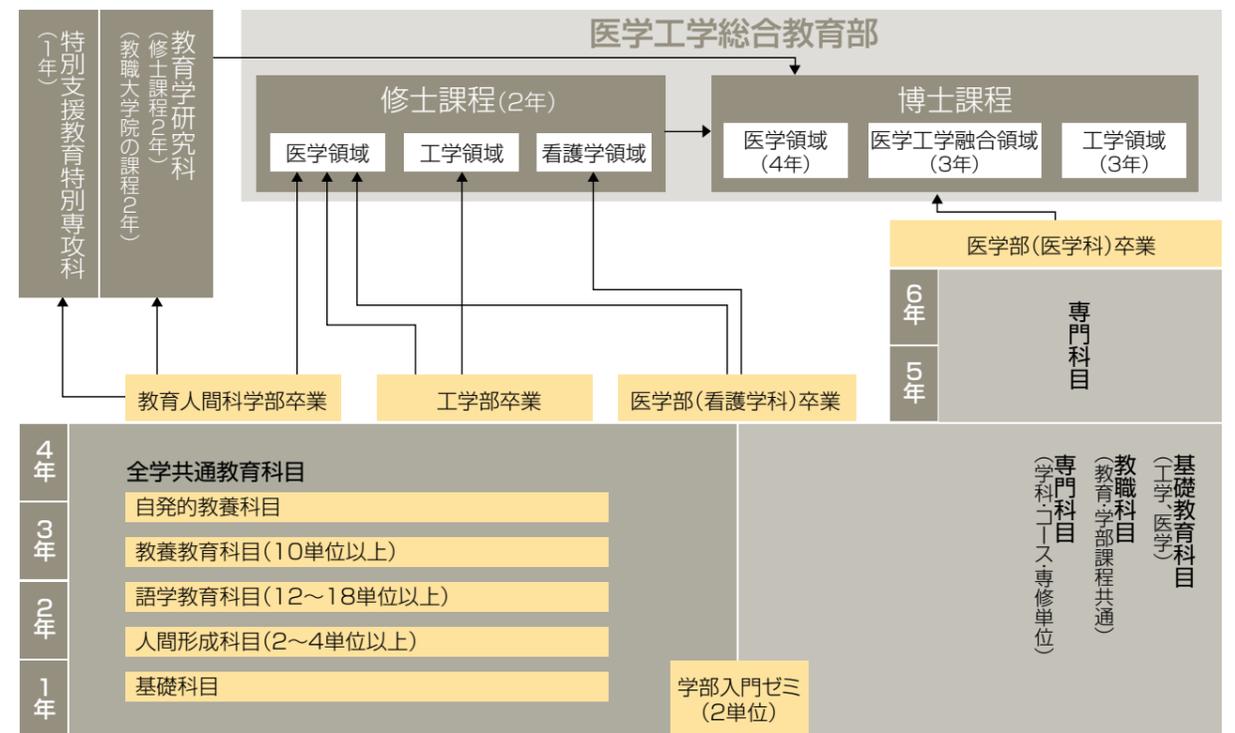
また、教育に関しては、教養教育の充実、専門教育の実質化を実施しており、研究に関しては、先端的、独創的研究が数多く行われています。

さらに、地域連携推進事業や産学官連携・研究支援事業により、本学の知的資源を地域活性化や文化の向上に活かしており、新潟大学と連携した国際・大学知財本部コンソーシアムにより、国際的な産学官連携を推進しています。

教育

【教養教育】

教養教育は全学共通教育と称し、学生が個人として生きていく基礎となることを認識し、広い知識と見識を身につけるとともに、自ら考え、問題解決していく能力の基礎となるものであるとともに、多様なものの考え方を身につける基礎となるものです。



教育人間科学部

医学部

工学部

生命環境学部

教育人間科学部

【理念・目的】

現代社会における人間及び社会に関する課題を実践的に担い、豊かな人間生活の構築に寄与する人材養成のための教育・研究を目標にしています。

【教育内容】

学校教育課程および生涯学習課程の二つの課程において、四年間を通じた手厚い少人数指導による育成を図りつつ、双方向コミュニケーション、ディスカッションを重視した教育を行います。インターンシップ、教育実習、卒業論文等により、深い専門性と幅広い知識・教養および課題解決のための実践的力量を身につけます。また、生涯発達教育、心理学等の学部共通科目や、両課程間をつなぐブリッジ科目を設けています。

学校教育課程では、現代的ニーズに応じた質の高い教員をめざし、少人数グループワーク型教職科目基幹授業群を軸とした体系的カリキュラムのもと、教育実習はもとより教育ボランティア等による教育体験の充実を期すとともに、コース専門科目の履修を通じて教育実践・教育内容に関する専門性を養います。

生涯学習課程では、生涯学習支援人材に係る各種資格の取得を可能とする教育課程のもと、アーツ・マネジメント、スポーツ・マネージメント等、地域連携による充実した実習、および芸術文化分野および身体健康分野の専門知識を幅広く修得するコース専門科目の履修を通じて、教育的素養に支えられた生涯学習を推進する専門的知識と技能を習得します。

なお、1年次生に対しては、コース単位の少人数ゼミ(学部入門ゼミ)を設けています。教員と学生、学生同士の対話により相互理解を深めるとともに、大学において学ぶための基本的知識・技能を修得します。

課程・学科 ▶ 学校教育課程 生涯学習課程 (平成24年度以降)

課程・学科 ▶ 学校教育課程 生涯学習課程 国際共生社会課程 ソフトサイエンス課程 (平成23年度以前)

医学部

【理念・目的】

深い人間愛と広い視野を持ち、医の倫理を身に付け、科学的根拠に基づいた医学的知識、技術を備え、地域医療や国際医療に貢献できる医療人や国際的に活躍できる優れた研究者を養成する教育・研究を行います。

【教育内容】

病める人の苦痛を自らの苦痛と感ずることができ、生涯にわたって医学的知識、技術の習得に努め、地域社会・国際社会の保健医療・福祉に貢献する意欲を持った人材、及び疾患の原因や治療法を科学的に追究し、国際的に活躍できる研究者になろうとする意欲を持った人材の育成。

課程・学科 ▶ 医学科 看護学科

工学部

【理念・目的】

広い教養と深い専門知識を身に付け、豊かな想像力と優れた判断力を備えた、将来を担う工学系技術者を養成する教育・研究を行います。

【教育内容】

工学部では、(i)エンジニアに必要な数学・物理などの基礎知識を習得する工学基礎科目、(ii)学ぼうとする専門分野の概要、どのように社会に役立っているのかを理解するための基礎ゼミ、(iii)技術者倫理(技術者倫理の必要性及びあり方を理解し、倫理問題を解決する方法を学ぶ)やコミュニケーション力の涵養(考えたことを相手に分かるように易しく正確に説明する、相手の話を正確に聞き取りそれに対してしっかりと自分の主張を通す等のスキルを身に付ける)・技術英語(国際社会で活躍できるエンジニアに必要な専門分野の技術英語を身に付ける)などの汎用力を養成する科目、(iv)解の無い問題に対し、様々な分野の技術者とディスカッションしながら、修得してきた広い知識を総合的に駆使し、試行錯誤を繰り返しながら、より良い解を見出して行くことができる能力(エンジニアリングデザイン能力)養成科目、および(v)各学科の専門科目(基礎工学)を系統的かつ効果的に履修します。その上で、応用工学を履修し、現代の世の中で役立っている専門分野に関する実践的かつ先端的な知識・技術を身に付けたエンジニアを養成します。

さらに専門の異なる7つの学科で構成する利点を活かし、学科横断的な授業科目も開講し、幅広い学際的知識の習得も可能です。

また、工学部では学科の壁を越えて学生が集まり学習交流を推進する「共創学習支援室(フィロス)」を設置し、数学及び物理を専門とする教職員が常駐してグループや個人での学習を支援しています。

課程・学科 ▶ 機械工学科 電気電子工学科 コンピュータ理工学科 情報メカトロニクス工学科 土木環境工学科
応用化学科 先端材料理工学科 (平成24年度以降)

課程・学科 ▶ 機械システム工学科 電気電子システム工学科 コンピュータ・メディア工学科 土木環境工学科 応用化学科 生命工学科
循環システム工学科 クリーンエネルギー特別教育プログラム ワイン科学特別教育プログラム (平成23年度以前)

生命環境学部

【理念・目的】

自然と社会の共生科学に基づき、広い視野と深い専門知識を身につけ、持続可能な地域社会の繁栄を担う人材を養成する教育・研究を行います。

【教育内容】

本学部は、最先端のバイオサイエンスとその産業への応用を学ぶ生命工学科、ワイン科学を含む食物科学や農学の専門知識と技術を学ぶ地域食物科学科、自然環境の調査・解析・評価および管理に関する専門知識と技術を学ぶ環境科学科、流通経済、経営、行政、都市計画など地域社会のマネジメントに関する専門知識を学ぶ地域社会システム学科で構成されています。これらの4学科では、学科横断的な教育体制のもと、次の特色あるカリキュラムにより実践的な専門教育を展開し、多様化・複雑化する関連分野の課題に対応しうる能力を育みます。

専門科目として、専門基礎科目、専門発展科目、専門特別科目がおかれています。専門基礎科目は学部共通科目と理系共通科目に分かれ、1、2年次に履修することで生命・食・環境・経営にわたる重層的な知識とともに専門科目を履修するための基礎学力を習得します。2、3年次では学科ごとに専門発展科目を体系的に履修し、専門領域の知識を深めていきます。実践力を養うため、専門発展科目には実験・実習・演習系の科目が多く含まれます。また、広範で複合的な問題へチャレンジする意欲をもつ学生のために、相互乗り入れ科目を設定し、他の学科の専門発展科目を履修できる柔軟性のあるカリキュラムとなっています。4年次では、主に専門特別科目を履修し、実践的専門職業人としての実技を修得する卒業研究、また社会的・職業的自立のためのインターンシップ等を行います。さらに、大学院へ向けた専門知識を身に付けるための特別講義などを履修します。

課程・学科 ▶ 生命工学科 地域食物科学科 環境科学科 地域社会システム学科

理念・目的

現代社会が直面する課題の解決に応用でき、また、これら応用研究の基礎となる学術研究を、国際的視野を持って創造的に推進する優れた研究者並びに高度で専門的な知識と能力を有する職業人を養成する教育・研究を行います。

大学院教育学研究科修士課程

【教育内容】

本課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専門分野における研究能力又は高度な専門性を要する職業等に必要能力を養うことを目的としています。課程は、教育支援科学専攻と教科教育専攻（言語文化・社会文化・科学文化・芸術文化・身体文化の各コース）で構成されています。規程に定める単位を修得し、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査・試験に合格することにより、各教科（領域）の各教諭専修免許状を取得できます。

修士課程 ▶ 教育支援科学専攻 教科教育専攻

大学院教育学研究科教職大学院の課程

【教育内容】

本課程は、地域の学校課題に即した学校改善・授業改善の構想力・実践力の育成とともに、教育に関する高度の実践的専門性と教育実践を具体的な場でリードする力の育成を目的としています。教育内容は、5領域に関わる共通基礎科目、独自共通科目、発展科目から構成され、すべてが研究者教員と実務家教員とのT・T授業により行われています。県内の連携協力校で2年間に400時間以上の実習、課題研究を修得し、各教科（領域）の各教諭専修免許状を取得できます。

教職大学院の課程 ▶ 教育実践創成専攻

大学院医学工学総合教育部修士課程

【教育内容】

〈医学領域・看護学領域〉専門知識及び開発能力、問題発見・解決能力、国際的コミュニケーション能力を修得し、専門技術者・研究者として社会に貢献できる人材の養成します。

〈工学領域〉現代社会が直面する課題の解決に応用でき、また、これら応用研究の基礎となる学術研究を、国際的視野を持って創造的に推進する高度で専門的な知識と能力を養成します。

修士課程 ▶ 医学領域 看護学領域 工学領域

大学院医学工学総合教育部博士課程

【教育内容】

研究者もしくは高度な専門技術者として自立して研究活動を行うに必要な深い学識と高度な研究能力並びに高い倫理観を養成します。

修士課程 ▶ 医学領域 医学工学融合領域 工学領域

特別支援教育特別専攻科

【教育内容】

本課程は教員普通免許（一種）を所持する方を対象として、一年間で障害児教育を担当しうる教員として養成することを主眼とする独立した教育の場です。課程はA,Bに分かれ、Aコースでは、教員普通免許所持者が特別支援学校教員一種免許状を取得できます。Bコースでは特別支援学校教員一種免許状を所持している方が特別支援学校教員専修免許状を取得できます。教育内容は単なる講義にとどまらず、学生の希望に応じてさまざまな実践体験を得る機会を提供しています。



病院の概要・特色

医学部附属病院は、27の診療科と28の中央診療部門等によって構成されており、606（一般病床566、精神病床40）の病床と最新の医療設備を有し、県内唯一の特定機能病院として、また、がん診療連携拠点病院・肝疾患診療連携拠点病院として、地域の中核的医療及び高度医療を担っています。

平成22年3月には、財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver.6）を受審し、医療提供のための機能が定められた基準に達しているとして、再審査なく認定を取得しました。

また、県内唯一の医師養成機関として、患者さんの人権を尊重する医療人を養成する役割を担っています。平成23年4月には、学部学生の臨床教育から卒業臨床研修までの一貫した教育体制を構築するため、臨床教育センターを設置しました。

研究面では、臨床研究連携推進部を中心に、治験や臨床研究を積極的に推進し、医療の発展に貢献しています。

平成23年度には、手術件数の増加、県内周産期医療の急激な減少、がん治療の推進、医師不足の解消などに対応するための病院再整備計画の実施が認められました。このことにより、山梨県医療計画との連携、地域医療ニーズ（社会的要請）への対応、山梨県内唯一の医療系研究機関としての使命の推進、などを基本方針として、基本計画を策定し、平成30年度までの8年間の長期間にわたる事業への取り組みを開始しました。

理念

「一人ひとりが満足できる病院」

医学部附属病院は、病院の使命を達成するため、医療を受ける人、医療に携わる人など、本院を利用する方一人ひとりが満足できる病院をつくりたい。

目標

●共に考える医療

患者さんの人権を尊重し、患者さんを中心とした、共に考える人間性豊かな医療を目指します。

●質の高い安全な医療

特定機能病院として高度の医療を実施するとともに、医療の安全に最大限の注意を払い、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）が向上できる安心・安全な医療を目指します。

●快適な医療環境

患者さんに、最適な医療を提供できる医療環境の整備を目指します。

●効率のよい医療

適切な人的配置とともに、医療情報管理システムを活用し、医療の効率化を目指します。

●良い医療人の育成

人間の尊厳を守り、専門性を高めつつ国際性豊かな医療人を育成するため、充実した医療教育を目指します。

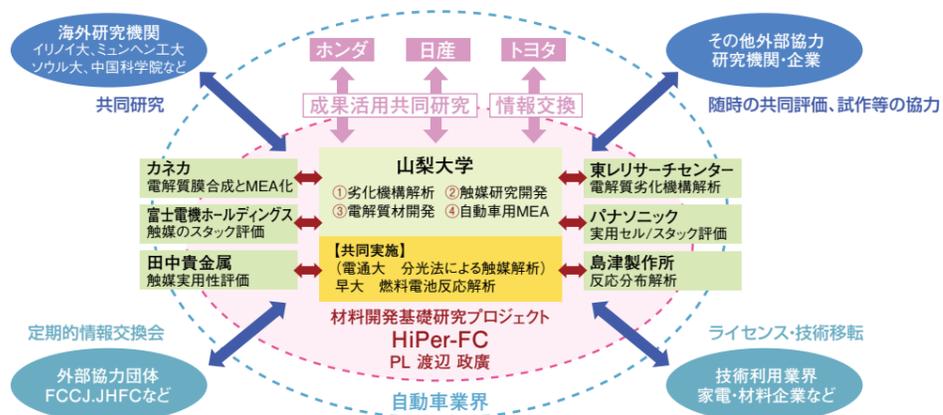
研究

Hiper-FC(High Performance Fuel Cell)プロジェクト

■**研究内容**: HiPer-FCプロジェクトは、2008年4月にNEDO技術開発機構から山梨大学が中心となり受託した7年計画のプロジェクトです。反応、劣化メカニズムに係わる知見ならびにナノテクノロジー等の最先端技術の融合により、触媒・電解質膜・膜/電極接合体等の燃料電池の新材料研究を実施し、高性能・高信頼性・低コストを同時に実現可能な高性能セルのための基礎技術を確立することで、燃料電池の本格普及に資することを目的としています。

■**研究目標**: -30℃で起動し、最高100℃での作動が30%RH(相対湿度)で可能であり、効率は定格の25%で64%LHV、耐久性は5,000時間作動および6万回の起動停止が見通せるMEAを開発します。なお、自動車を実定した条件においては、電解質は量産時に1,000円/㎡を見通すものとし、電極触媒の白金等の貴金属使用量は0.1g/kW以下とする。

■研究開発体制



■**低炭素研究ネットワーク**: 本プロジェクトは、低炭素社会構築に向けた研究基盤ネットワークの整備・活用を目的として、平成21年度文科省補正予算でスタートしました。優れた「グリーン・ナノテクノロジー」を有する全国18の大学・研究機関を結ぶ研究ネットワークの拠点の一つとして、燃料電池・水素製造の研究を進めています。

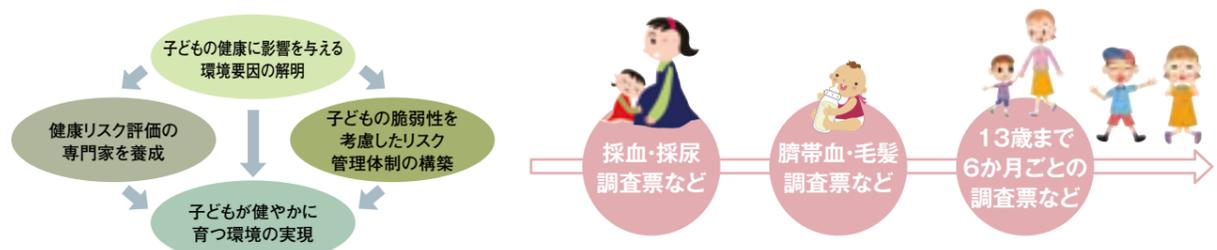
子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査) 甲信ユニットセンター

■**調査の背景**: 人々を取り巻く社会環境、生活環境の変化に伴い、環境の汚染や変化が人の健康などに悪影響を及ぼす可能性(=環境リスク)が増大しているとの考えがあります。特に、化学物質など環境中の有害物が子どもの成長・発達にもたらす影響が国内外で大きな関心となっています。これを解決するためには大規模で長期にわたる妊娠期間中からの出生コホート研究(追跡調査)が必要です。

■**調査の目的**: 子どもたちの健康に影響をもたらす環境要因を解明し、子どもの脆弱性を考慮したリスク管理体制の構築を図ることで、次世代育成にかかる健やかな環境の実現を目指します。

■**調査の内容**: 「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」は、子どもの健康に影響を与える環境リスクを明らかにし、子どもたちが健やかに育つ環境をつくるために、全国10万人の妊婦と、その子どもが13歳になるまでを追跡調査する環境省のプロジェクトで、2010年度にスタートしました。

本学は全国15のユニットセンターの一つとして採択され、出生コホート研究センター内に「甲信ユニットセンター」を設置。信州大学と連携し、山梨、長野両県の対象地域から、3年間で7,200人(山梨4,488、長野2,712)の妊婦を募集し、協力医療機関や自治体などと協力しながら、生まれた子どもたちを追跡調査します。



グローバルCOEプログラム

「アジア域での流域総合水管理研究教育の展開」

グローバルCOEプログラムは、「21世紀COEプログラム」の基本的考え方を継承した文部科学省のプロジェクトで、世界最高水準の研究基盤のもとで世界をリードする創造的な人材養成を図るための国際的に卓越した教育研究拠点の形成を支援するものです。

本拠点では、アジア域の水問題に資するために、種々の水分野での先端技術力及びそれらを結集して地域の事情を考慮して応用できる実践力を持つ人材の要請を目指します。

テニュアトラック普及・定着事業(若手研究者の自立的な研究環境整備促進)

「先端領域若手研究リーダー育成拠点」

テニュアトラック普及・定着事業(若手研究者の自立的な研究環境整備促進)は、若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、世界的研究拠点を目指す研究機関において、テニュア・トラック制(若手研究者が、任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積み、厳格な審査を経て安定的な職を得る仕組み。)に基づき、若手研究者に競争的環境の中で自立性と活躍の機会を与える仕組みの導入を図ることを目的としています。

本学では、若手研究者に本学が世界に誇る最先端の研究領域において、豊かな研究費、複数助言者による研究指導・支援、十分な研究スペース等を提供することにより若手研究リーダーを育成するシステムを確立し、人事制度の改革と世界的研究拠点の形成を目指しています。

厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服緊急対策研究事業

「ウイルス性肝炎の病態に応じたウイルス側因子の解明と治療応用」

肝炎等克服緊急対策研究事業は、肝炎ウイルスなどについて、その病態や感染機構の解明を進めるとともに、肝炎、肝がんなどの肝疾患予防、診断及び治療法等に資する研究を推進しようとするものです。

本学では、C型肝炎ウイルスに関する世界に先駆けた研究成果を基に、肝炎ウイルス遺伝子などの研究を実施し、新たな予防・診断・治療法の開発・確立を目指しています。

最先端・次世代研究開発支援プログラム

「新規血小板上受容体CLEC-2を標的とした抗血小板薬、抗転移・腫瘍薬、検査の開発」

最先端・次世代研究開発支援プログラムは、将来、世界をリードすることが期待される潜在的な可能性を持った若手、女性研究者が、「新成長戦略」において掲げられた政策的・社会的意義が特に高い先端的研究開発を支援するものです。

本学では、世界で最初に発見した血小板の蛋白である「CLEC-2」のメカニズムの生体内での役割の解明を進め、特に先進国で主要な死因となっている癌や心筋梗塞の予防や治療に役立つ薬剤の開発のための研究を行っています。これにより、関係する多くの患者の救命や生活の質の改善などに貢献することを目指します。

先端的低炭素技術開発事業戦略的創造研究推進事業(JST-ALCA)

「高効率水素製造水蒸気電解/燃料電池可逆作動デバイスの開発」

独立行政法人科学技術振興機構(JST)のALCA事業は、温室効果ガス、とりわけ二酸化炭素排出量を大幅に削減し、明るく豊かな低炭素社会の実現につながる技術を開発する研究開発を支援します。ブレークスルーの実現や、既存の概念を大転換するような技術などの創出を目指しています。

本学では、太陽光や風力等の再生可能エネルギーから得られた大規模電力を、水素ガスを媒体として高効率かつ低コストに蓄電できる高温水蒸気電解水素製造/固体酸化物燃料電池可逆作動デバイスの研究開発に取り組んでいます。

研究成果展開事業「研究成果最適展開支援プログラム」(A-STEP)

「新規微生物を用いたブドウ病害防除剤の開発」

研究成果展開事業「研究成果最適展開支援プログラム」は、大学などで生まれた研究成果を基に、実用化を目指すための研究開発フェーズを対象とした技術移転支援を目的としています。

本学からも数多くの研究シーズが採択され、山梨県の地場産業であるブドウの高品質化及びブランド化に貢献する「微生物農業」の開発研究など、産業界に結びつく研究を中心に取り組んでいます。

科学研究費補助金(新学術領域研究(研究領域提案型))

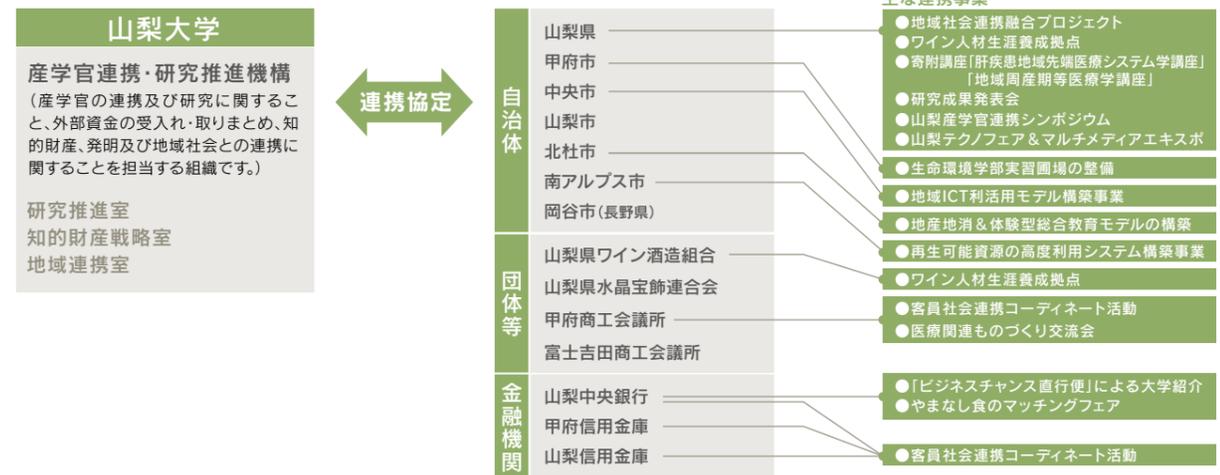
「超低速ミュオン顕微鏡が拓く物質・生命・素粒子科学のフロンティア総括」

本領域では、世界初の超低速ミュオン顕微鏡を用いた新しい実空間イメージングの方法を確立し、界面において多様な物理・化学・生命現象が現われる機構を解明して、物質設計に役立てる新しい学術領域開拓を目指しています。

本学では、プロジェクト全体を推進するとともに、次世代半導体スピントロニクス材料やグリーンエネルギー変換材料の界面におけるキャリア及びスピントロニクス伝導の機構解明、生体物質の電子伝達の機構解明と機能イメージング、及び触媒反応における酸素欠陥と酸素分子の挙動解明に関する世界に先駆けた研究を進めています。

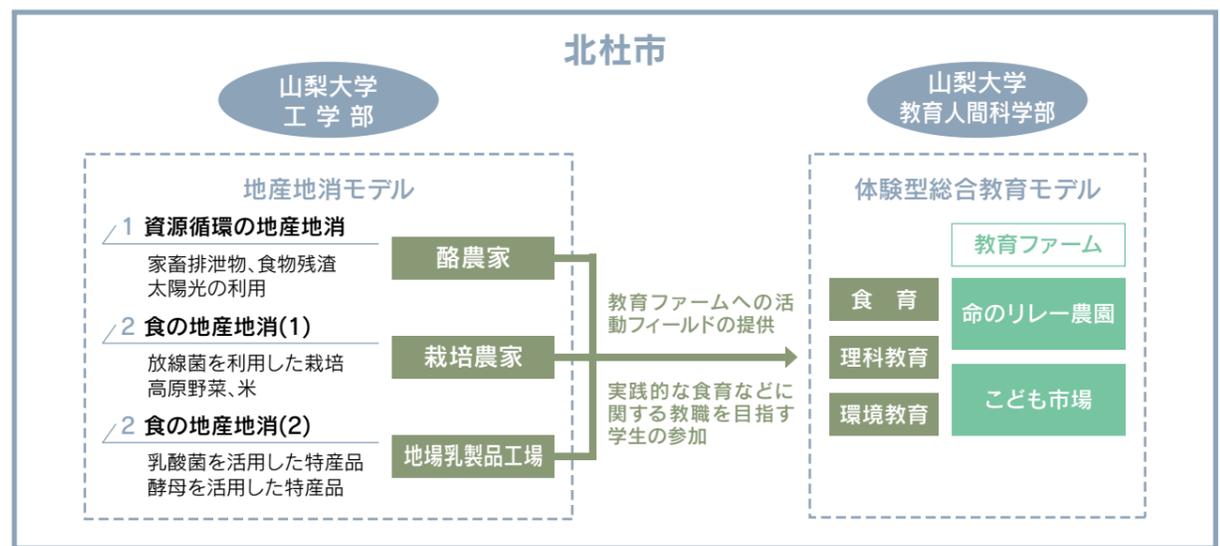
山梨大学と地域との連携

山梨大学で創出される知的財産を最大限に活用するために、地方自治体及び公共団体等との連携協定の締結を進めることにより、「知」を育てる「地域のインフラ」を整備し、これをベースとして新たな産学官連携活動の推進を目指します。



地産地消&体験型総合教育モデルの構築

北杜市が有する農業・酪農施設を活用して、本学の技術により高原野菜など特産品のブランド化と地産地消を促し地域活性化を推進すると共に、食育・理科教育・環境教育を体系付けた体験型総合教育を実践します。



地域防災・マネジメント研究

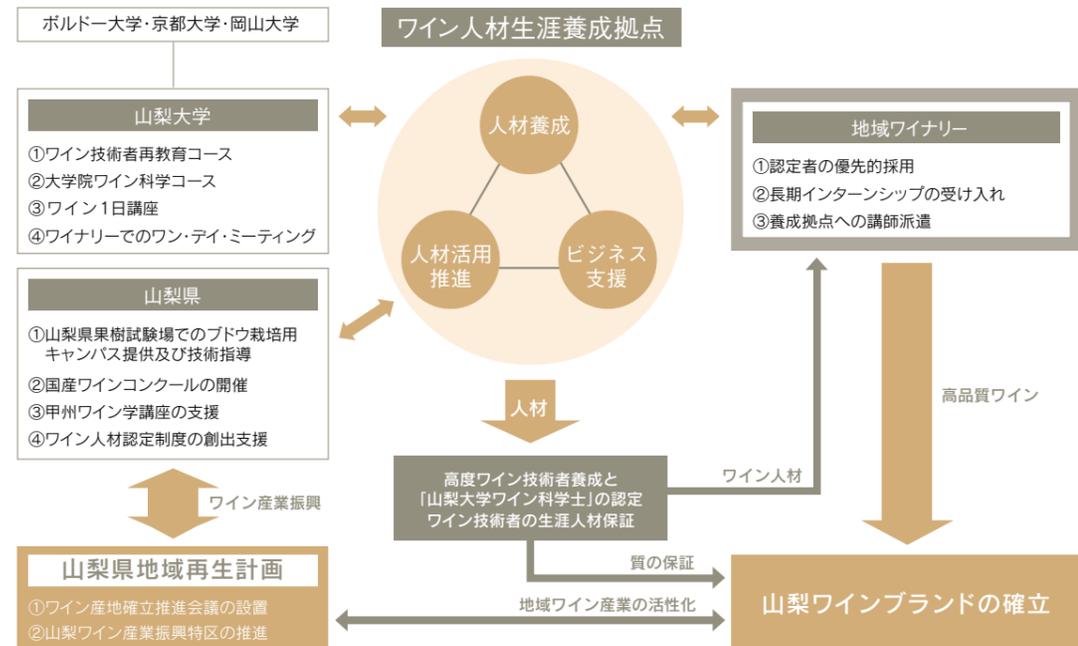
地域防災・マネジメントセンターは、地域に根ざした研究組織として、教育、研究を通して山梨の防災に貢献する事を目的に、平成23年5月30日に設立し、県と連携して山梨の防災対策強化に向けた事業を展開しています。



ワイン人材生涯養成拠点

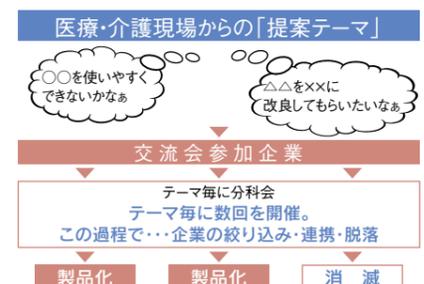
山梨大学・山梨県・山梨県ワイン酒造組合

山梨大学、山梨県、地域ワイナリーのパートナーシップに基づいて、ワイン人材を生涯にわたって養成する拠点を構築する事業です。地域のニーズを反映させたブドウ栽培からワイン醸造、将来的には経営学までを視野に入れた実学中心のカリキュラムによりワイン人材を養成し、山梨の伝統産業である地域ワイン産業のグローバルスタンダード化を実現し、ワイン産業の活性化を目指します。また、ワイン技術者再教育コース及び大学院の修士課程ワイン科学コースを修了し、認定試験に合格した方には「山梨大学ワイン科学士」の称号を授与します。



医療関連ものづくり交流会

医療関連ものづくり交流会は、山梨大学医学部附属病院及び関係医療機関の日常的な業務から生じる隠れたニーズを地元企業に紹介し、大学と地元企業が連携して医療機器・用品等の共同開発や改良に取り組むことを目的とした交流会です。大学附属病院等との共同開発を通じて、山梨県内に多い下請け型中小企業の医療機器製造業などの医療分野への新規進出および研究開発型企業への転換の推進を目指します。大学附属病院においては、医療現場の問題解決により、サービスの向上と、業務の効率化が期待できます。



客員社会連携コーディネート活動

趣旨

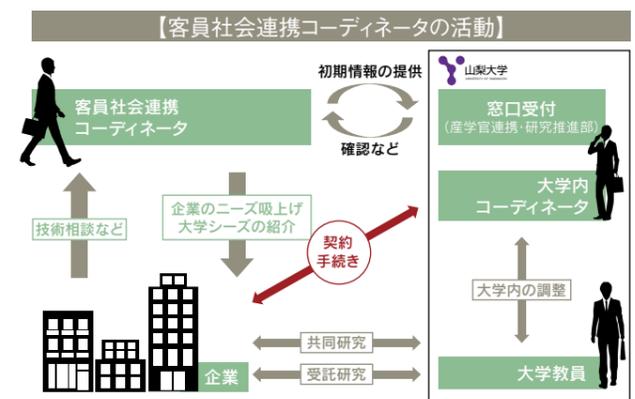
大学の研究成果を地域で有効利用するとともに、社会連携活動の推進に携わる人材の育成を図り、更なる地域の活性化に資することを目的とした制度。平成18年度に創設。

客員社会連携コーディネーターの活動内容

- 山梨大学の研究シーズを企業等に紹介
- 企業ニーズの収集・掘り起こし
- 大学のシーズと企業ニーズとのマッチング

成果

コーディネーターを通じた相談も多く、共同研究に発展する成果が得られています。



山梨大学は、これまで海外の33の大学・機関と大学間交流協定及び学部間交流協定をそれぞれ結び、それらの大学と国際的な結びつきを深めながら、より世界に開かれた大学となることを目指しています。また、グローバル化を推進するためグローバル化推進会議を設置し、大学全体のグローバル化を進めています。

留学生の受入れ

本学では、特色ある大学院教育と魅力ある学部教育をととして、これまで留学生を受け入れてきた結果、現在、18か国から200名ほどの留学生が学んでいます。

入学した留学生には、早く日本に溶け込めるように宿舎である国際交流会館を備え、チューター制度により在学生在が生活や学習面でのきめ細かな個別指導を行います。留学生センターにおいては、日本語や日本事情に関する授業はもちろんのこと、日本語研修コースや日本語補講を開講し学習面のサポートを行います。

また、留学生は在学中に研修旅行、異文化交流会、もちつき大会、留学生懇談会など様々な行事に参加することができ、日本文化や異文化間の交流を体験することができます。

就職に関しては、キャリアセンターと共同して就職ガイダンスやセミナーを実施して、日本企業への就職を希望する留学生から好評を得ています。



国際交流会館

グローバルな学生の育成

日本の社会において、今ほどグローバルに活躍できる人材が求められているときはありません。本学では、海外留学応援プログラムを創設し、本学での単位認定が可能な海外語学研修や交流協定大学への留学を積極的に応援しています。また、海外語学研修や留学を予定する学生には、事前に英語はもちろん、海外生活を行うための指導も行っています。

その他、英語での授業数の増設、e-ラーニングの導入、学生向け情報サイトの英語対応、異文化間交流ができるカフェの設置など、これからの国際化に対応したグローバルな学生を育成するための具体的方策を検討しています。

このような環境の中で、海外での学習と生活を体験した学生は、その経験による自信と語学力の向上に加え、自ら考えて行動する力を身につけて社会へはばたいています。



留学生実地見学旅行



留学生懇談会

大学附属施設

■ 附属図書館

甲府キャンパスに本館、医学部キャンパスに医学分館があり、学習や教育、研究に必要な資料を約62万冊備えています。図書や雑誌だけでなく、ビデオやDVDのほか、IT時代に対応した電子ジャーナルやデータベースの導入に力を注ぎ、教育及び研究への支援を積極的に行っています。

また、地域社会の知的情報基盤としての役割を果たすことを目的として、調査、研究のために図書館を必要とする地域の方々にも、資料の閲覧、貸出、複写などのサービスを提供すると共に、山梨県内の大学図書館、公共図書館等の蔵書を一度に調べることができる横断検索システムの提供も行っています。

本館には、隣接して子ども図書室も開設され、大学と地域との共生に向けた活動を行っています。

■ 附属図書館常設展示室

明治・大正・昭和期の日本文学を彩る様々な作家の初版本や芸文雑誌を順次展示しています。現在は、近代の異材である谷崎潤一郎関係コレクションを展示しています。このコレクションは与謝野晶子・「明星」関係コレクションと並んで、本学の近代文学文庫の中核をなすものです。

学内共同教育研究施設

■ クリーンエネルギー研究センター

エネルギー及び地球環境問題の解決に貢献するクリーンエネルギーに関する研究を推進する目的で設置されました。

現在は、日本を代表するクリーンエネルギー研究（燃料電池研究部門と太陽電池・環境科学研究部門）の拠点として国家プロジェクトを推進し、学内外の研究組織、企業とも積極的に協力しながら最先端の研究活動を行っています。

また、従来からの学部・大学院生への教育、研究指導に加え、平成23年度文部科学省博士教育リーディングプログラムに採択された「グリーンエネルギー変換工学特別教育プログラム」を実施し、この分野の人材育成にも尽力しています。



■ 燃料電池ナノ材料研究センター

燃料電池自動車や家庭用燃料電池は、世界が直面している深刻なエネルギー・地球環境問題の有力な解決手段です。この実用化は裾野の広い産業を生み出し、大きな雇用も創出します。本センターは、このような燃料電池の世界的研究拠点形成を意図した国家的事業として、平成20年4月に設置されました。ここに、幅広い専門分野の教員20数名を集め、また国内外の大学や企業と共同して先端的研究を実施し、燃料電池社会の早期実現に貢献すると共に、国内外で指導的研究者・技術者として活躍できる人材教育を工学系大学院の中で進めていきます。



■ 機器分析センター

電子顕微鏡、原子間力顕微鏡、電子分光、EPMA、X線回折、質量分析、元素分析、クロマトグラフ、NMR、蛍光X線、ICP、赤外分光、ラマン、DNAシーケンス、三次元座標測定、万能試験機など、様々な精密分析計測が可能な20種以上の大型機器と関連機器を備え、共同利用に提供しています。



■ 総合分析実験センター

旋盤からリアルタイムPCRまで、研究に必要な機器を誰でもいつでも使えるようにサポートする機能解析分野、ルールと倫理に基づいた適切な動物実験環境を提供する資源開発分野、数学を駆使して最適な実験計画立案や統計解析を支える生命情報分野、放射性同位元素（RI）利用実験のための安全管理を行う放射線分野の4分野で、大学全体の教育・研究活動を支えます。



施設案内

留学生センター

本学の留学生の勉学及び研究生生活がみのり多きものになるように指導と支援をしていくために設置されました。具体的には、次のような指導・支援を行っています。

- ①学部の留学生に対する日本語と日本事情の教育
- ②修学及び生活上の指導と相談及び文化交流
- ③国費留学生に対する学部及び大学院の予備教育
- ④大学院生及び研究生を主な対象とした日本語補講
- ⑤留学生と日本人学生間交流及び国際交流
- ⑥学生の海外留学の指導と相談と派遣の促進

大学教育研究開発センター

本学における大学教育の質を確保し、教員の教育力の向上を図るため、大学教育に関する研究・開発を行うとともに、教養教育の実施を支援する目的で設置されました。

全学共通教育部門、教育活動企画・評価部門、教育力向上開発部門の3部門で構成されています。

キャリアセンター

本学の学生の進路支援のためのガイダンスなどの企画・実施や進路情報の提供・分析のほか、学生のキャリア形成を育むためのキャリア教育を展開しています。

複数のキャリアアドバイザーを配置し、進路に関する相談に応じています。

保健管理センター

学生及び教職員の健康保持・増進施設です。

医師・臨床心理士等の資格を持つ教員を配置し、様々な相談に応じています。

教育人間科学部附属施設

教育実践総合センター

学部の理念を踏まえつつ、教育実践研究の充実に貢献する目的で設立された施設です。

具体的には、教員養成・教員研修段階におけるカリキュラム開発、情報通信技術を活用した教育方法の研究、教育ボランティア活動の組織運営のほか、教育現場が直面する諸課題の研究や現職教員対象の教育相談などを行っています。

小学校

教育人間科学部との密接な連携のもとに小学校教育の理論及び実際に関する研究・教育を行います。

また、教師を志す学生のために実習を指導し、高い教職的教養を身につけた教師の養成に努めています。

さらに、研究成果を広く公開し、学習指導等についての新たな提案を行っています。

中学校

教育人間科学部の教育研究計画との密接な連携のもとに、中学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実験・実証に寄与します。

また、学部の教育実習計画に基づき、教育実習生の観察・実習の実施及び指導に当たります。

さらに、本校における教育研究の成果を広く公開し、公立学校の研究や現職教員に協力して県下の中学校教育の推進に寄与しています。

特別支援学校

教育人間科学部との密接な連携のもとに、知的障害児教育の理論と実践についての研究・教育を行います。

また、教育実習・介護等体験実習の計画に基づき、学生の教育実地研究、観察・実習等の実施と指導を行います。

さらに、特別支援教育におけるセンター校として、毎年公開研究会を実施するなど、教育実践や研究、教育相談活動を通して地域の特別支援教育・現職教育の推進に寄与しています。

幼稚園

教育人間科学部との密接な連携のもとに、幼児教育の実証的研究を進めます。

また、学部学生の教育研究、教育実習の指導を行います。

さらに、本園における研究成果を広く公開し、地域の幼児教育の推進に寄与しています。

工学部附属施設

ものづくり教育実践センター

工学系における『ものづくり教育の重要性』が一段と重みを増している状況に鑑み、『ものづくりの創造的かつ実践的教育の拠点』として発足しました。

センターでは、地場産業である伝統工芸を取り入れた実習、機械工作実習、研究用機器の設計・製作に関する全面的支援を行っています。さらに受託加工の相談及び学外者に対する教育訓練（公開講座、放送大学授業支援等）も積極的に行っており、地域に開かれたセンターを目指しています。

生命環境学部附属施設

農場

甲府市農業センター小曲試験圃場の一部を借用して作られた総面積約2.5haの農場です。山梨県の特産果樹であるブドウや桃など地域特性に適した農作物の作付けを行い、教育・研究に利用します。また、全学科の学生がこの農場で「生物資源実習」を受講します。設備として、管理棟（575㎡）、ガラス温室（480㎡）、堆肥舎、人工気象室、プレハブ倉庫などがあります。

ライフサイエンス実験施設

実験動物飼育室、マイクロマニピュレーション室、分子生物学実験室、細胞培養実験室、細胞イメージング室等からなる学部附属の実験施設です。新設の施設で、平成24年6月に完成しました（2階建て800㎡）。この施設では、遺伝子（DNA）、タンパク質、細胞、小動物個体の各レベルにおいて質の高い実践的な教育研究を行うことができます。

医学工学総合研究部附属施設

ワイン科学研究センター

ワインを専門に研究する我が国唯一の研究機関です。山梨県や日本国内のワイン産業の発展に寄与するという目的に加えて、現在は世界的な視野に立ち、先端的な細胞工学や遺伝子工学技術を駆使した基盤研究から、最新のブドウ栽培並びにワイン醸造の実用研究までを包括する研究センターとなっています。

また、学部及び大学院学生の教育・研究指導並びにワイン科学のリーダー的人材育成を目的に、平成18年度からワイン人材生涯養成拠点プロジェクト、さらに平成19年度よりワイン科学特別教育プログラムを実施しています。

クリスタル科学研究センター

原子配列制御や集合組織制御によって新しい機能を持つ結晶の育成に関する研究、また、その応用に関する研究を行っています。新機能無機化合物、酸化物結晶、高温超伝導酸化物結晶、半導体超構造を有する結晶などが研究の対象です。

教育に関しては、卒業論文や大学院生の研究・教育指導を行っています。

国際流域環境研究センター

国際的な水環境問題に対処するための研究センターです。地域や諸外国と連携し人的ネットワーク拠点を形成しながら、流域環境に関する研究・教育を進めています。世界各地で生じている水をめぐる様々な問題の解決や、気候変動に伴って予想される災害や環境変化への対策などに関して、医学・工学の研究者が連携して研究や教育を行っています。

出生コホート研究センター

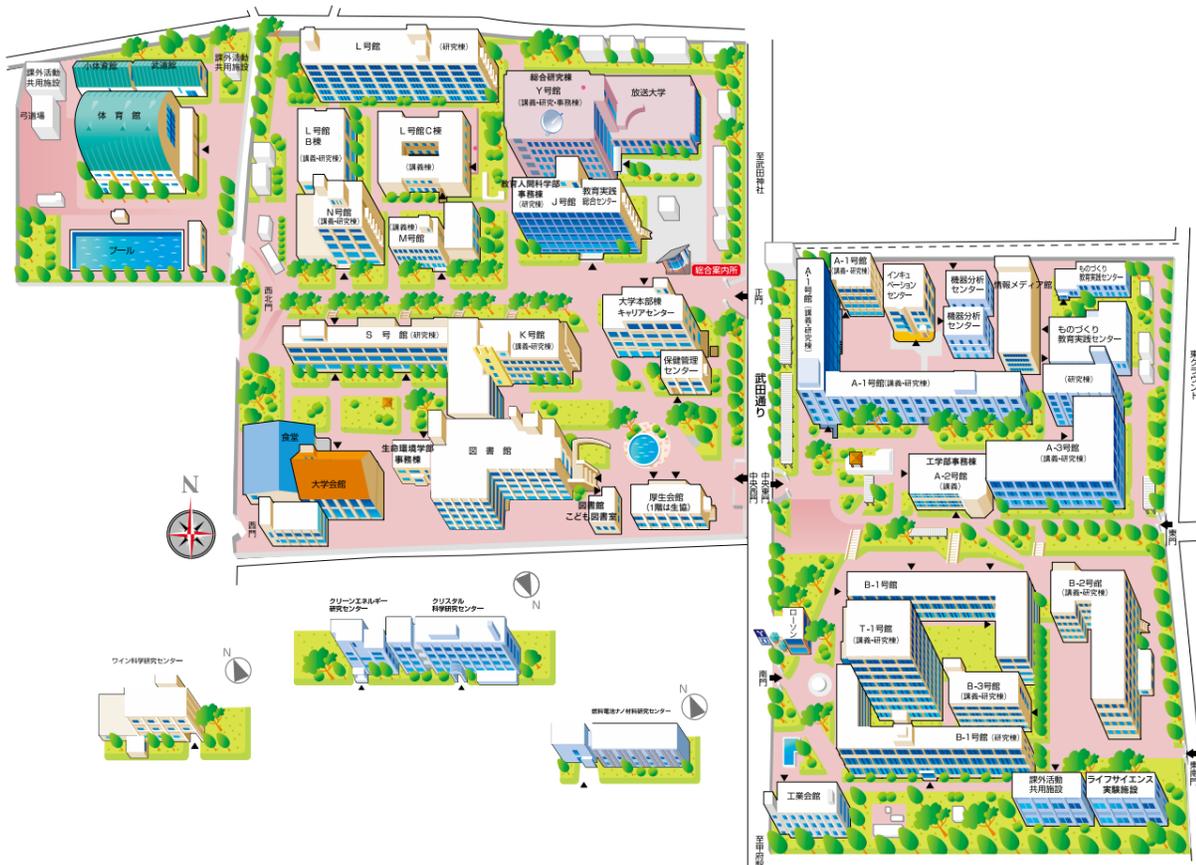
環境省が2010年度から開始した「子どもの健康と環境に関する全国調査（通称・エコチル調査）」の「甲信ユニットセンター」として、信州大学と連携し、山梨・長野両県における調査参加者の募集、調査に必要なデータの収集、調査に関する教育・普及・啓発活動などを行っています。

また、社会医学講座と協力して、甲州市における「母子保健長期縦断調査（甲州プロジェクト）」を実施しています。

キャンパスマップ

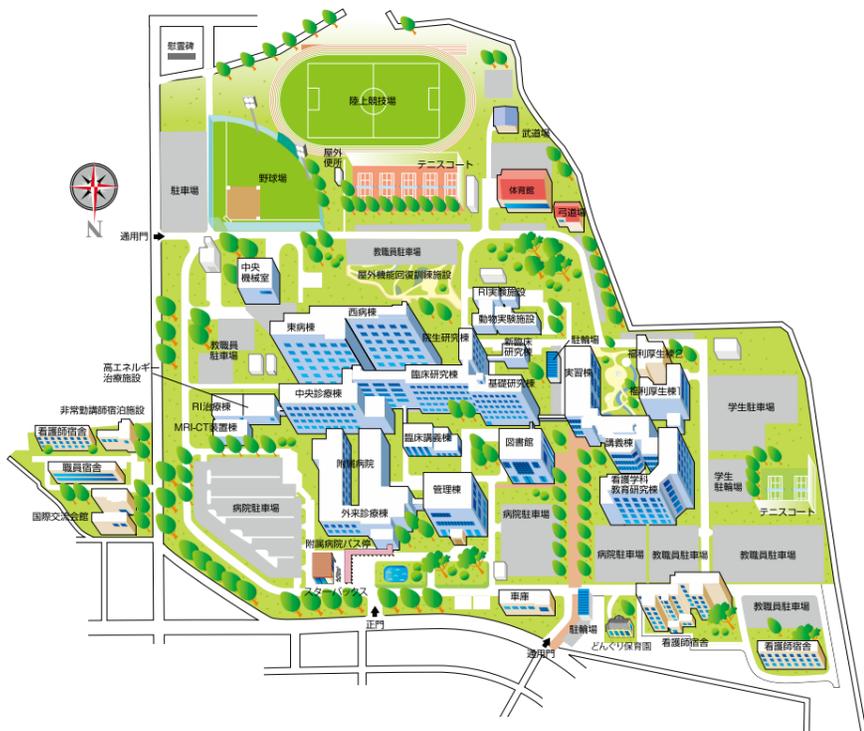
甲府キャンパス

KOFU CAMPUS



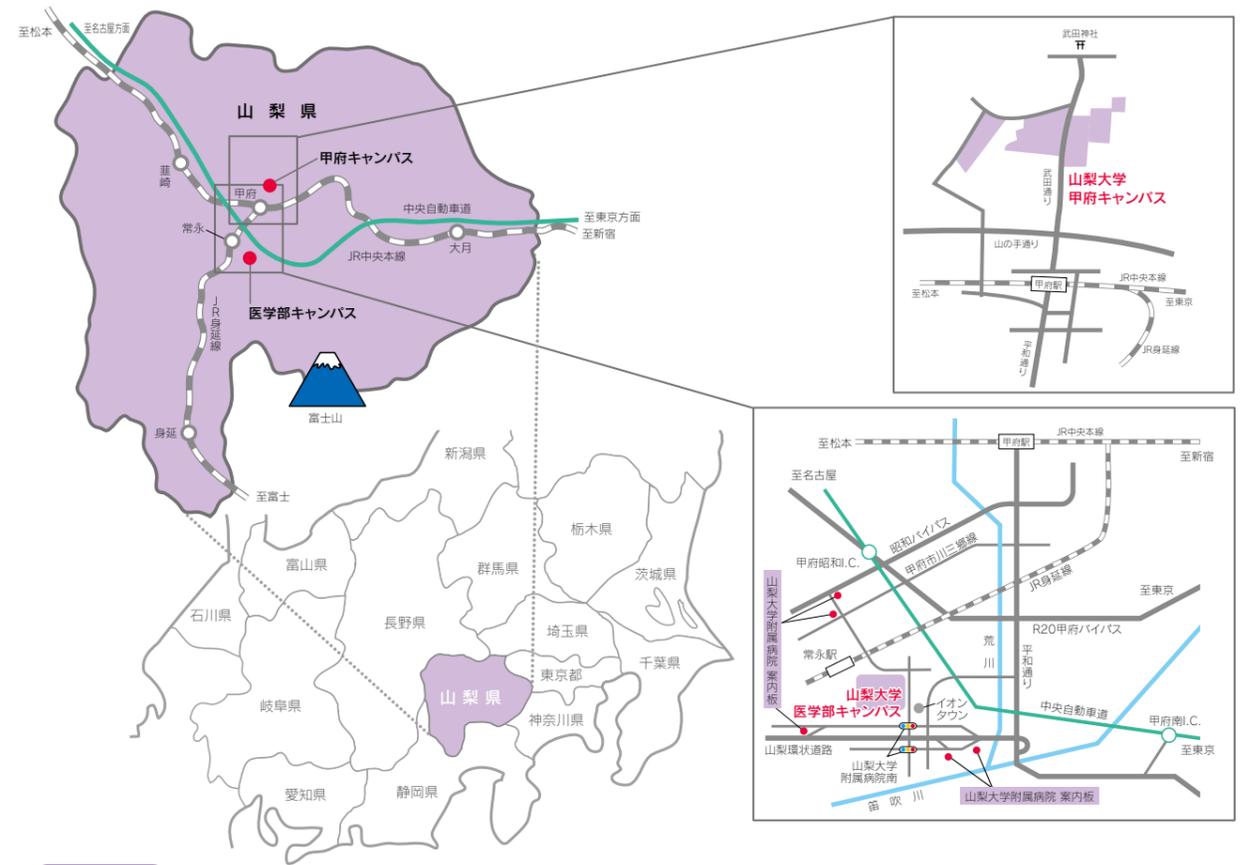
医学部キャンパス

MEDICAL CAMPUS



山梨大学へのアクセス

ACCESS



電車・バス

新宿⇒甲府駅 都心からだと、最速83分。特急なら乗り換えなしでこれちゃうんです。

- 🚆 JR中央線 特急「あずさ」又は「かいじ」で最速83分
- 🚌 新宿駅西口高速バスターミナルより最速119分

名古屋⇒甲府駅 名古屋からでも、特急に乗ればおよそ3時間。

- 🚆 ①JR中央線(塩尻駅経由)/塩尻で特急「しなの」から特急「あずさ」に乗り換え、最短181分
- 🚆 ②東海道新幹線・JR身延線(静岡駅経由)/静岡で新幹線「ひかり」から特急「ふじかわ」に乗り換え、最短195分
- 🚌 JR名古屋駅前バスセンターより約263分

甲府駅⇒甲府キャンパス 甲府駅から、信玄ゆかりの武田神社を目指して歩くこと15分。

- 🚌 甲府駅北口2番バス乗り場より「武田神社または積翠寺」行き約5分、「山梨大学」下車
- 🚶 甲府駅北口より武田通りを北上、徒歩約15分

甲府駅⇒医学部キャンパス 甲府駅から、附属病院前発のバスが出ています。

- 🚌 甲府駅南口バスターミナル8番乗り場より「山梨大学附属病院」行き約30分、終点下車
- 🚶+🚶 甲府駅でJR身延線に乗り換えて「常永(じょうえい)」駅まで最短17分 + 常永駅から南東方向に徒歩約15分

車

🚗 東京⇒甲府キャンパス

首都高新宿線から高井戸IC経由で中央自動車道:高井戸IC~甲府昭和IC(高井戸=甲府昭和間約1時間20分、113.2km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

🚗 東京⇒医学部キャンパス

首都高新宿線から高井戸IC経由で中央自動車道:高井戸IC~甲府昭和IC(高井戸=甲府昭和間約1時間20分、113.2km)で下りて、一般道を南の方角へ。国道20号線、昭和バイパス経由で約15分

🚗 名古屋⇒甲府キャンパス

東名高速:名古屋IC~小牧JCT~中央自動車道:甲府昭和IC(名古屋=甲府昭和間約3時間、245.4km)で下りて、一般道を北東の方角へ。国道20号線またはアルプス通り経由で約20分

🚗 名古屋⇒医学部キャンパス

東名高速:名古屋IC~小牧JCT~中央自動車道:甲府昭和IC(名古屋=甲府昭和間約3時間、245.4km)で下りて、一般道を南の方角へ。国道20号線、昭和バイパス経由で約15分



山梨大学 2012

Outline of National University Corporation
"University of Yamanashi"

平成24年7月発行

編集・発行 国立大学法人 山梨大学総務部 総務・広報課

URL <http://www.yamanashi.ac.jp/>

